

山岳文化環境論(その1)

(山岳文化と総合人間学の融合から)

田中文夫 : 神奈川

はじめに . . . これまでの自然環境限界を超える五つのアポリア

1. 生きた総合人間学から . . . 体験的山岳文化環境論考へ

1) 論考の基礎

- ① 全体は部分の総和以上のものであり、人は限定的な立場を考慮して技術の適用を図る
- ② 体験の主観は客観の一部 . . . 意識 (主観) と知識 (客観)、直感的合理性
- ③ 「知」の限界 . . . 知の内在性～知のパラドックス、神、体験のクオリア

2) 論考のめざすところ

- ① パラダイム・チェンジと山岳文化環境論
- ② 生きた総合人間学からの山岳文化環境論

3) 論考の方法

- ① 山岳自然体験等による主体的認識を分析、比較、検証、論理化、蓄積する実証的方法
- ② 知の創発性を言語による論理構造化、表象化、数式化等により、客観的かつ質的に表現する
- ③ 部分が全体を語ることのパラドックスからより客観性を得るため論考経過を開示し、批判的論評を帰還させながら再考・集約し直し、より真実と総合に迫る「質的研究」を目指す

4) 論考のスタンス

- ① 環境及び認識の「限界」を自覚する「人」の論考を基礎とする
- ② 「人」は思考と体験を併せ経ることにより、実存たる人間総合をより理解、受容できる
- ③ 実存にもとづく主観的認識は、言語化、表象化することにより、二次的客観性を獲得する
- ④ 文明と文化の概念を分けて考え、整理し直してみると、進化と進歩の概念がより明確となる
- ⑤ 「日常と非日常」を分けて捉え、非日常体験は日常生活の支えとなる

***** 大会では以上を説明とし、以下は概要資料を配布と致します *****

2. 文化・文明と環境概念 : ◎さまざまな環境の定義 ◎宇宙の中から考察する文化と文明 ◎近代における文化・文明概念 ◎山岳登山体験と文化 ◎新たな文化環境概念 ◎生態学から考察する人工環境と文明 ◎人工環境と情報 ◎環境デザイン
3. 山岳文化環境概論 : ◎概要 ◎自然系環境 ◎社会系環境 ◎人文系環境
4. 自然系環境 (自然環境) : ◎山と生物環境 ◎山と理学環境 ◎山と工学環境 ◎山と保健医療環境
◎自然環境への適応と順応 ◎自然保護と人類の持続的進化環境
5. 社会系環境 (人工環境) : ◎山と社会現象 ◎山と遭難 ◎山と社会体制・制度 ◎山と職業・技術
◎山岳施設整備 ◎山と産業・経済
6. 人文系環境 (人間環境) : ◎山と思想・哲学・心理学 ◎山と文学 ◎山と芸術・美学 ◎山と民族・宗教
◎山と記録 ◎限界の認識
7. 日常環境と非日常環境 : ◎日常環境 ◎非日常環境 ◎文化的意味 ◎危機対応意識 ◎探求のプロセス
◎記録性と記憶性
8. 山岳環境体験と教育 : ◎人生とライフサイクル ◎体験の枯渇と葛藤 ◎体験の人間原理
◎心のパラドックス ◎人生はいつも山登り
9. 山岳環境体験と人工環境社会 : ◎心の技術 ◎生活技術 ◎行動技術 ◎探求技術 ◎文化技術 ◎文明技術
10. 山岳文化環境問題の具体例 : ◎若年層の減少化 ◎高齢者登山と遭難 ◎氷河の後退と氷河湖の肥大化
◎山小屋のエネルギー ◎登山者の自然破壊 ◎山の廃棄物処理 ◎etc